

華東理工大学訪問記

RASA 山形辰史

2005年12月10日



華東理工大学の正門



日本語学部の4年生の皆さん

1．はじめに：華東理工大学と黄先生と平出基金

2005年11月21日に中国上海市の華東理工大学を訪問しました。華東理工大学の外国語学院日本語学部¹には、2001年度のRASA研究補助受給生の黄育紅先生が勤務していらっしゃいます。黄先生は千葉大学大学院博士課程で児童文学を専攻なさり、2004年に博士号を取得なさいました。2005年5月より華東理工大学に就職なさり、早速、日本語学部主任補佐兼高学年教研究室主任に任命されました。同大学就職の際には、RASAに宛てて丁寧な挨拶状を電子メールでいただきました。

その際、同大学の日本語蔵書の数の少なさを強く嘆いていらっしゃいました。ご自身でも日本語の本を収集なさるとのご決心を聞き、私どもRASAでもなにがしかご協力できないかと考えるようになりました。そこで2005年6月より、日本文学、日本児童文学、日本語教材等をRASAのメンバーおよび関係者の方々に呼びかけましたところ、9月末までに265冊の本が集まりました。そこで船便にて華東理工大学にこれらの本をお贈りいたしました。

郵送費および、追加的な本の購入の必要を考慮して、RASAが管理しております平出基金より10万円を華東理工大学に差し上げました。平出基金は、RASAが実施・運営をしている「在日アジア人留学生への研究補助」の出資者と長らく物心両面でご協力くださっていた故平出園子さんが2002年1月16日に亡くなるに際して、RASAに遺贈いただきました300万円を元にした基金です。発展途上国の人材育成のために、RASAが管理し、支出しております。

寄贈した本が華東理工大学に到着した頃合いを見計らって、RASA代表の私、山形辰史とその母、山形和子が上海に私的旅行をし、その際に華東理工大学に立ち寄りしました。これを機に、華東理工大学外国語学院日本語学部の皆様が贈呈式を開いてくださいましたので、以下、その様子をご報告いたします。なお、山形和子は今回RASAを通じてお贈りした265冊のうち45冊を寄贈しております。また和子の夫の康夫は黄先生がRASAより研究補助金を受給なさった折りの、直接の出資者でもございました。このような縁があり、黄先生と和子との間に手紙のやりとりもあったことから、今回、私辰史とその母和子が華東理工大学を訪問したものであります。

2．華東理工大学外国語学院日本語学科

華東理工大学は1952年に設立された総合大学で、1993年に現在の華東理工大学の名称が与えられました。外国語学院のあるキャンパスは上海市の南部に位置しています。学生数

¹ 日本語では外国語学部日本語学科に相当するかとと思われます

は全体で 1 万 5000 人あまりとされています。



山形和子、辰史の両名は 11 月 19 日に上海入りし、同日と 20 日は市内の観光をしました。これについては黄先生の全面的なご協力を得ました。

21 日には大学より公用車を出していただき、上海市内より大学に赴きました。上は大学の正門に立つ和子、辰史の写真です。

正門から約 200 メートル歩いたところに外国語学院の建物があります(右上)。ちょうど休み時間に当たり、数多くの学生さん達が次の授業へ移動するところでした。

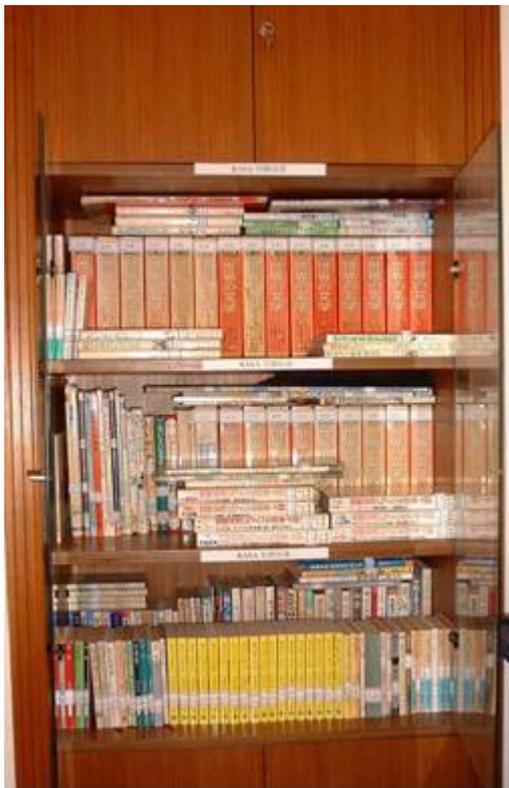


外国語学院は清楚な佇まいでした。1 階の入り口には毛沢東(Mao Tsetung)元国家主席による格言「語学の修得は容易ならず、痛みを伴うほどの努力を要する」が掲げられています(上)。また、各階の踊り場には、ゲーテやニーチェといった人々の言語に関する格言が掲げられ、外国語学院を創設なさった方々の志の高さを伺い知ることができました。

日本語学部は外国語学院の上階にありました。教授室は陽光差し込む明るい部屋で、窓際に黄育紅先生の席がありました(左の写真)。

RASA を通じて寄贈した本は日本語学部の書架にコードを振って納められていました。書棚

には「RASA 寄贈図書」というラベルが貼ってありました。



3 . 贈呈式と交流会

建物を見学させていただいたあとは贈呈式となりました。贈呈式には共産党書記長の余先生、常務副学部長の金偉先生、黄育紅先生、他の先生方と、日本語学部4年生の20人弱の出席を得て行われました。贈呈式には大学からカメラマンが派遣され、ビデオ録画されました。



授でもある余書記長が英語で歓迎のご挨拶をしてくださいました。その後、金副学部長が日本語でご挨拶くださいました。引き続き、私が寄贈の書籍を金先生に手渡しました(上の写真)。また、平出基金からの10万円も

贈呈式は黄先生の司会で、日本語で行われました。まず英語学部の教



同時に贈呈しました（前ページの写真）。その後、黄先生、蔣先生および4年生代表の学生さんから、それぞれ日本語でご挨拶がありました。4年生代表の方の日本語の挨拶が非常に立派で、感激しました（表紙の写真を参照ください）。



また、お返しとして私と母に、竹に記された「孫子」とお茶をいただきました（左の写真）。「孫子」



は RASA 事務局に保管しておきますので、皆さん事務局にいらっしゃった折りにはご覧ください。

フォーマルな式が終わった後、出席した4年生の一人一人に将来の夢について尋ねました（右上の写真）。多くの学生さんは、



将来の夢として、日本に行くことを挙げていました。中には、カウンセラーになること、甲子園に行って高校野球を見ることなどを挙げる人もいました。果物もいただき、楽しく学生さんと交流をしました。余書記長は退席なさったあとで残念でしたが、その他の出席者の皆さんと写真を撮っていただきました（上の写真）。

4 . おわりに



贈呈式が行われた日の夕方、私と母は帰国いたしました。華東理工大学で外国語祭が開催され、日本語朗詠コンテストに日本語学部の2年生が参加し、我々の寄贈した絵本の一冊を朗読したとのことでした（左の写真）。寄贈した本が早速活用されたということを知り、非常に嬉しく思いました。

以上、華東理工大学の様子と、贈呈式の概要をご報告いたしました。寄贈にご協力くださった皆様、ありがとうございました。天上にいらっしゃる平出さんにも、謹んでご報告いたします。（了）